

1968年～「運営委員会委託」事業

これまでも

2000年～「市直営（公設公営）」事業

これからも 学童保育事業の実施主体は船橋市です。

事業の移行にともなう「解雇」「失業」は困ります

「公設公営」の学童保育においても、子どもたちの毎日の生活にかかわっていくのは指導員です。指導員は学童保育事業全体のあり方と深く結びついています。

市の「基本方針」によると指導員として採用されるためには「幼稚園及び小・中学校の教員、保育士、社会福祉主事、児童厚生員（児童の遊びを指導する者）のいずれかの免許又は資格を有する者」であることが必要条件となっています。しかし、その身分は市の定めにある「一般職の非常勤職員の任用・勤務条件等に関する規則」に基づく「非常勤一般職」です。この「規則」は昇給、退職金制度、賞与、福利厚生等がなく1年ごとの更新、最大5年（有期雇用）までしか勤務できないというものです。

所管の話で、勤務時間は週30時間であること、「5年間有期雇用」については学童保育の指導員には適さないので検討する（4月に間に合わない場合は見切り発車となる）ということがわかりました。身分は不安定、推定される年収額では現状を下回る指導員が半数以上いると予想されます。これでは、指導員として安定的・継続的に勤務することは難しくなります。船橋市は実態を正確に把握したうえで現状の労働条件を下回らないような労働条件を示すべきです。

また、現在働いている指導員の継続就労についての保障はありません。学童保育は、学年や下校時間が異なっている子どもたちが生活している場です。指導員は子どもたち一人ひとりのその時々々の状態、気分、感情もあるがまま受け止め、子どもたちの擁護・保護・育成を含めた生活の援助をしてきています。毎日の安定的で且つ継続した生活をつくりだすことで、親たちは安心して働き続けることができます。現在働いている指導員はこれまで市の委託事業の中で研修を重ね経験を積みながら日々仕事をしてきているのです。これらは、学童保育事業を円滑に移行する上でも現指導員の継続就労が不可欠であるということにつながります。

1968(S43)年から、学童保育は船橋市の委託事業として続いています。今日まで雇用者があいまいなため社会保険等への加入はできないままです。

来年4月からは「公設公営」学童保育となり、雇用者も明確になります。

学童保育事業はこれまでの「運営委員会委託」から「船橋市直営」となって継続します。しかし、このままでは学童保育の「公設公営」化にともない継続就労の保障がない、労働条件も現状を下回ってしまうということであれば事実上の「解雇」「失業」を余儀なくされ、路頭に迷う事態にもなりかねません。仮に「失業者」が生じることになったら「新方式の移行により事業が後退することのないように検討しております」（1997年9月議会）とした市長答弁や公約の意が十分反映されない「公設公営」学童保育となってしまうのではないのでしょうか。

私たち学童保育で働く指導員は、希望する現指導員の継続就労と生活できる労働条件の提示を要望します。



参加者からの感想より 一抜粋

毎日、安心して子どもが帰れる場所、小さな冒険ができ、いきいきと目を輝かせて過ごせる今の学童保育が大好きです。学童保育の「質」を考えたとき、子どもにそった大きな心で温かい目で見守ってくれる現職の指導員での、のびやかに自分を出せる学童保育であり続けられるように切望しています。

安心して通える学童保育というのは、施設などはもちろんですが、やはり指導員の存在がいちばん大きいと思います。いま、信頼関係をしっかりと結んでいる指導員がかわってしまったら、まして、学童保育にかかわったことのない指導員だったら、子どもたちは行こうと思うでしょうか。

いままで、苦しい状況のなかで精一杯頑張っていた指導員には、ゆとりを持って、子どもたちの保育にあたっていただきたい。そのための公設公営だったはずなのに……。

障害をもつ子どもに対して、船橋のモラルをとわれる問題ではないかと思っています。というのは、障害をもつ子がいるのが特別というのではなく、たしかに多くの方の協力が必要になるとは思いますが、そういう子どもたちが一人の社会の一員として一緒に生活でき、その親たちが安心して働けることこそがこれからの社会にとって大切なことだと思います。そのために指導員の増員は不可欠なことだと思っています。

学童保育は、ただ放課後を安全に過ごせる場であるだけでなく、子どもが家にいるのと同じく、喜んで帰れる場、楽しく過ごせる場にしてほしいと思います。それに理解に苦しむのは指導員の先生の身分保障をどうして認めようとするのかということです。子どもが育つ場に立ち会うというのは、それなりに苦勞の多いことなのに、それを直接行う指導員をなぜ冷遇しようとするのか、本当に理解に苦しみます。

おうちさんお母さんの声

指導員の方々については、今のこの不安定さがつのるなか、日々子どもたちを明るく迎えてくださり、心中揺れていらっしやると思いつつも感謝！感謝！です。絶対にこんなはずじゃなかったとはいわないよう努力したいと思っています。

今後増えていく高齢者を支えていくのは、いま学童保育でどろんこになって遊んでいる子どもたちだと思います。真剣に子どものもとも考えてほしいと思います。



10月3日、市内の学童保育に子どもを通わせている親と指導員より150人を越える人々が集まり「学童保育・秋のつどい」(テーマ「必要ならすべてが安心して利用できる公設公営の学童保育を實現しよう」・船橋市学童保育連絡協議会主催)が開催されました。当日は、お母さんお父さんな角度から多数の意見交換がなされました。ここではとりわけ「現・指導員」に対する親の思いを中心に、参加者の感想の中からいくつかをとりあげてご紹介いたします。